

# 小・中・高等学校の新学習指導要領で扱われる文構造及び文法事項 －英検各級レベルとの比較－

## Grammatical Items Used in the New Course of Study for Elementary, Junior High and High Schools －Comparison with Each Grade Level of EIKEN－

(2022年3月31日受理)

竹野 純一郎  
Junichiro Takeno

Key words : 学習指導要領, 文構造, 文法事項, 小学校外国語科, 小中高接続, 英検

### 概 要

本研究では、新学習指導要領で扱われている英語の特徴や決まりに関する事項の文構造及び文法事項を明確にするために、児童・生徒が小学校から高等学校までの学校教育制度の中でどのような文構造や文法事項を学ぶのかについて、新旧学習指導要領の比較対照を行った。加えて、それらの文構造や文法事項について具体的な難易レベルのイメージを得るために、英検のどの級で初めて出現するかを調査した。その結果、従来中学校で扱われていた文、文構造の基礎的な事項が小学校の外国語科、すなわち教科としての英語学習で扱われることになり、同様に、高等学校で扱われていた仮定法のうち基本的なものなどが新たに中学校で扱われるようになったことが確認できた。また、それぞれの文構造、文法事項の英検各級レベルとの比較においては、いくつか例外的な項目はあるものの、小・中・高等学校の各段階における指導事項と英検各級のレベルは総じて同順序に現れていることが分かった。

### 1. はじめに

2011（平成23）年度、「外国語活動」が小学校学習指導要領に正式に位置付けられ導入された。5年生・6年生が外国語（原則として英語）を体験し、慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を養う授業の時間が確保された。2012（平成24）年度からは、中学校の英語の時間が各学年で105時間から140時間に増加し、さらに、高等学校では、2013（平成25）年度の入学生から年次進行により、学習指導要領が段階的に適用され、新科目が実施に移された。大橋・橋内・佐生・竹野（2011）は、2011年度は日本の英語教育界にとって新時代を画する時となるだろうと記している。

前回の学習指導要領改訂から約10年が経ち、日本の英語教育界は再び新時代へ突入している。小学校では新学習指導要領に基づき、2020（令和2）年度から3年生・

4年生で外国語活動が、5年生・6年生で「外国語科」が全面実施され、中学校では2021（令和3）年度から新学習指導要領が全面実施されている。高等学校では2022年度（令和4）年度入学者より新学習指導要領が学年進行で実施される。

前回の学習指導要領改訂と今回の改訂で大きく異なる点は、小学校5年生・6年生に外国語科、すなわち教科として英語が導入されたことである。対象が3年生・4年生となった外国語活動では、児童への学習負担の配慮から、文字については音声によるコミュニケーションを補助するものとして取り扱うにとどめている。また、細かい文構造などに関する抽象的な概念について理解させたりすることは目標としていない。一方で、小学校外国語科では、英語の特徴やきまりに関する事項として、ア「音声」、イ「文字及び符号」、ウ「語、連語及び慣用表現」、エ「文及び文構造」など、中学校・高等学校とほぼ同様

の言語材料が示されている。

本稿では、新学習指導要領で扱われている英語の特徴や決まりに関する事項の「文構造及び文法事項」（小学校では「文及び文構造」、中学校では「文、文構造及び文法事項」、高等学校では「文構造及び文法事項」）に焦点を当て、児童・生徒が小学校から高等学校までの学校教育制度の中で学ぶ文構造及び文法事項を確認する。加えて、それらの文構造や文法事項について具体的な難易レベルのイメージを得るために、英検のどの級で初めて出現するかを調査し、考察を加える。

## 2. 文構造及び文法事項の調査・比較検討の方法

小・中・高等学校の新学習指導要領で扱われる文構造及び文法事項を確認するため、新旧の小・中・高等学校学習指導要領解説を基に一覧表を作成する。その際に扱う内容は以下のとおりである。

- ・小学校にあつては、文部科学省（2017a）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編（平成29年7月）』の第2部第2章第2節の2「内容」の(1)「英語の特徴やきまりに関する事項」のエ「文及び文構造」に示されるもの。
- ・中学校にあつては、旧学習指導要領である文部科学省（2008b）『中学校学習指導要領解説 外国語編（平成20年7月）』の第2章第2節の2「内容」の(3)「言語材料」のエ「文法事項」に示されるもの。加えて、新学習指導要領である文部科学省（2017b）『中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月）』の第2章第2節の2「内容」の(1)「英語の特徴やきまりに関する事項」のエ「文、文構造及び文法事項」に示されるもの。
- ・高等学校にあつては、旧学習指導要領である文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編（平成21年12月）』の第1部第3章2のイ「文構造のうち、運用度の高いもの」及びウ「文法事項」に示されるもの。加えて、新学習指導要領である文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月）』の第1部第2章第2節の2「内容」の(1)「英語の特徴やきまりに関する事項」のエ「文構造及び文法事項」に示されるもの。

文構造や文法事項について具体的な難易レベルのイメージを得るために、英検のどの級で初めて出現するかを確認する。「英検」（正式名称：実用英語技能検定）は、公益財団法人日本英語検定協会によって運営実施されている。英検各級のレベルについて、日本英語検定協会HPで公表されている英検の各級の目安、審査基準、英検Can-doリストなどで確認することができ、各級の推奨目安は、5級：中学初級程度、4級：中学中級程度、3級：中学卒業程度、準2級：高校中級程度、2級：高校卒業程度、準1級：大学中級程度、1級：大学上級程度である。日本英検協会は各級の目安、審査基準、英検Can-doリストなどは公表しているが、各級に求められる文構造及び文法事項については明らかにしていない。この情報を得るために、協会HPで確認することができる以下の各級の試験内容・過去問を参照する。

- ・2021年度 第1回 第2回 第3回 問題冊子
- ・2021年度 第1回 第2回 第3回 リスニング原稿

なお、過去3回分の問題冊子やリスニング原稿で調査対象の文構造や文法事項が現れない場合、旺文社による英検過去6回全問題集で過去問をさかのぼり、どの級が初出であるのかを可能な限り確認する。

## 3. 調査結果と考察

小・中・高等学校の新旧学習指導要領で扱われる文構造及び文法事項をリストにし、それぞれの事項が小学校、中学校、高等学校のどの段階で指導されるのかを確認した。また、英検過去問の問題冊子及びリスニング原稿を参照し、どの級でどのような文構造・文法事項が初めて現れるかについて調査をした。

### 3.1 旧中学校学習指導要領で扱われた文構造及び文法事項と新学習指導要領及び英検各級レベルとの比較

表1は、旧中学校学習指導要領に示された文構造・文法事項別にまとめたものである。左端には、考察の際の参照を容易にするための通し番号として「No」を付した。その右の「中学校」の列であるが、この表は原則、旧中学校学習指導要領である文部科学省（2008b）に基づいているため、ほとんどの項目が「中」となる。その列に「新」

と記してある場合は、その項目が新たに中学校学習指導要領に追加されたことを示している。「新小」とある場合は、その事項が小学校学習指導要領に移行したことを示している。「文構造及び文法事項」、「例」も文部科学省（2008b）に基づいているが、「新」や「新小」の項目については、文部科学省（2017a）、あるいは文部科学省（2017b）の記述や例文を参照した。「小／中」の列で

は、今回の改訂後の小学校／中学校における指導項目の区別を「小」「中」で記した。「小中」とある場合は、同様の項目が小学校と中学校にわたる指導内容であることを示している。「英検」の列は、それぞれの項目がどの級で初めて現れるのかについて、5級(5)、4級(4)、3級(3)、準2級(P2)で示した。「備考」欄には、特記事項を記入した。

表1 旧中学校学習指導要領で扱われた文構造及び文法事項と新学習指導要領及び英検各級レベルとの比較

No	中学校	文構造及び文法事項（学習指導要領）	例（学習指導要領解説から）	小／中	英検	備考
		(ア)文				
1	中	a 単文	Paul has a guitar.	小	5	小学校へ移行 5級は単文のみ
2	中	a 重文	Tom went to the supermarket, and his wife stayed home.	中	4	
3	中	a 複文	I didn't go out because it was raining.	中	4	
4	中	b 肯定の平叙文	Bill has three cats.	小	5	小学校へ移行
5	中	b 否定の平叙文	Emi doesn't like baseball.	小	5	小学校へ移行
6	中	c 肯定の命令文	Walk slowly, please.	小	5	小学校へ移行
7	中	c 否定の命令文	Don't run here.	小	5	小学校へ移行
8	中	d 疑問文のうち、動詞で始まるもの	Is this your classroom?	小	5	be動詞で始まるものは小学校へ移行
9	中	d 疑問文のうち、助動詞（can, do, may など）で始まるもの	Do you walk to school?	小 中	5 4	can, doは小学校へ移行 may, willなどは中学校
10	中	d 疑問文のうち、orを含むもの	Would you like tea or coffee?	中	5	
11	中	d 疑問文のうち、疑問詞（how, what, when, where, which, who, whose, why）で始まるもの	What did you have for breakfast this morning?	小 中	5 4	5W1Hは小学校へ移行 which, whoseは中学校 whyのみ4級
12	新	感嘆文のうち基本的なもの	How interesting!	中	3	既に中学校で言語材料として扱われている
13	新小	代名詞のうち、I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの	I want a new ball.	小	5	
14	新小	動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの	I am good at swimming.	小	4	
		(イ)文構造				
15	中	a [主語＋動詞]	Yukio walks to school.	小	5	小学校へ移行
	中	b [主語＋動詞＋補語]のうち、				
16	中	(a)主語＋be動詞＋名詞/代名詞	The pen on the desk is mine.	小	5	小学校へ移行
17	中	(a)主語＋be動詞＋形容詞	This game is exciting.	小	5	小学校へ移行
18	中	(b)主語＋be動詞以外の動詞＋名詞	The boy became an astronaut.	中	4	
19	中	(b)主語＋be動詞以外の動詞＋形容詞	You look nice in that jacket.	中	4	

		c [主語+動詞+目的語]のうち,				
20	中	(a)主語+動詞+名詞/代名詞	I like apples very much.	小	5	小学校へ移行
21	中	(a)主語+動詞+動名詞	They enjoyed talking together yesterday.	中	4	基本的な表現であれば小学校でも扱う
22	中	(a)主語+動詞+to不定詞	He tried to do his best.	中	4	want+to不定詞は配慮して小学校でも扱う
23	中	(a)主語+動詞+how(など)to不定詞	My grandfather knows how to use the computer.	中	3	
24	中	(a)主語+動詞+thatで始まる節	We didn't know that she was ill.	中	3	
25	中	(b)主語+動詞+whatなどで始まる節	I don't know what he will do next.	中	3	
		d [主語+動詞+間接目的語+直接目的語]のうち,				
26	中	(a)主語+動詞+間接目的語+名詞/代名詞	The teacher told us an interesting story.	中	4	
27	中	(b)主語+動詞+間接目的語+how(など)to不定詞	I taught him how to send e-mail.	中	3	
28	新	主語+動詞+間接目的語+thatで始まる節	I'll show you that this is not true.	中	3	高等学校から移行
29	新	主語+動詞+間接目的語+whatなどで始まる節	Can I tell her where you live?	中	3	高等学校から移行
		e [主語+動詞+目的語+補語]のうち,				
30	中	(a)主語+動詞+目的語+名詞	We call him Ken.	中	3	
31	中	(a)主語+動詞+目的語+形容詞	Her smile always makes us happy.	中	3	
32	新	主語+動詞+目的語+原形不定詞	Will you let me try?	中	P2	高等学校から移行
		f その他				
33	中	(a)There+be動詞+～	There is an old tree in front of my house.	中	4	
34	中	(b)It+be動詞+～(+for～)+to不定詞	It is fun to travel to new places.	中	3	
35	中	(c)主語+tell, wantなど+目的語+to不定詞	Our teacher told us to go out and enjoy the break.	中	3	
36	新	主語+be動詞+形容詞+thatで始まる節	I'm glad that you like it.	中	3	中学校ではすでに扱いがあったので追加
		(ウ)代名詞				
37	中	a 人称を表すもの	I, you, mine, yours, his	中	5	I, you, he, sheなどの基本的なものは小学校
38	中	a 指示を表すもの	this, that, these	中	5	these, thoseは中学校
39	中	a 疑問を表すもの	what, which, who	中	5	改訂後の「中」要領例ではwhich, whose
40	中	a 数量を表すもの	some, few, much	中	4 3	Thank you very much. は例外として考える
41	中	b 関係代名詞のうち、主格のthatの制限的用法	Yuki bought a doll that had large beautiful eyes.	中	3	
42	中	b 関係代名詞のうち、主格のwhichの制限的用法	The animal which runs the fastest is the cheetah.	中	3	

43	中	b 関係代名詞のうち、主格のwhoの制限的用法	Is that the man who was in the park yesterday?	中	3	
44	中	b 関係代名詞のうち、目的格のthatの制限的用法	These are the pictures that he painted in the country.	中	3	
45	中	b 関係代名詞のうち、目的格のwhichの制限的用法	This is the dog which I like the best.	中	3	
46	中	b接触節	This is the mountain I climbed last year.	中	3	
47	新	接続詞	—	中	4	
48	新	助動詞	—	中	5 4	canが「能力」を表す場合のみ小学校
49	新	前置詞	We lived here for ten years.	中	5 4	on, in, atなどは小学校で慣れている
		(エ)動詞の時制など				動詞の時制及び相など
50	中	現在形	We are tired and sleepy.	中	5	「時制」としては中学校
51	中	過去形	He was in China last year.	中	4	基本的な表現であれば小学校でも扱う
52	中	現在進行形	Hanako is opening the present.	中	5	
53	中	過去進行形	Taro was kicking a ball.	中	4	
54	中	現在完了形	He has lived in London for two years.	中	3	
55	新	現在完了進行形	Masashi and Yukio have been playing soccer for two hours.	中	P2	高等学校から移行
56	中	助動詞などを用いた未来表現	It will be fine tomorrow. Shall I help you?	中	4	中学校からの扱い
57	中	(オ)形容詞及び副詞の比較変化	tall - taller - tallest, good - better - best, slowly - more slowly - most slowly	中	3	
58	中	(カ)to不定詞 名詞としての用法	To learn a new language is difficult.	中	3	
59	中	(カ)to不定詞 形容詞としての用法	The students had a lot of homework to do.	中	3	
60	中	(カ)to不定詞 副詞としての用法	We are excited to meet you again.	中	3	
61	中	(キ)動名詞	We enjoyed dancing together.	中	4	活用頻度が高い基本的なものは小学校も可
62	中	(ク)現在分詞の形容詞としての用法	My brother saw shooting stars last night.	中	3	
63	中	(ク)過去分詞の形容詞としての用法	This is a book written by Soseki.	中	3	
64	中	(ケ)受け身	Judo is enjoyed by many people in the world.	中	3	
65	新	仮定法のうち基本的なもの	If I were you, I would ask my best friend to help me.	中	P2	

まず、「(ア)文」について調査し、考察を加えていく。No. 1からNo. 3までは、主語(S)と述語(V)の関係が一つだけ含まれる単文か、andやbut, orなどの接続詞で単文

が並列的に結ばれた重文、あるいは、従属節を含む複文についてである。小学校では単文しか扱われておらず、英検5級でも単文しか用いられていない。重文、複文は

中学校になって、英検では4級になって現れることが分かった。No. 4からNo. 7までの肯定及び否定の平叙文、肯定及び否定の命令文は、いずれも小学校から扱われ、英検では5級が初出であった。No. 8については、中学校ではなく小学校から指導する事項となり、「動詞で始まるもの」から「be動詞で始まるもの」と具体的な記述に変わっている。No. 9について、助動詞canとdoは小学校から指導が始まるが、mayやwillなどの助動詞は中学校のままであることが確認できた。英検においては、5級でcanとdoは現れるが、mayやwillなどの助動詞は4級から扱われる。No. 10は中学校で扱われるが、英検では5級が初出である。No. 11の疑問詞では、which, whoseは従来どおり中学校での指導となるが、それら以外の疑問詞、When (いつ), Where (どこで), Who (だれが), What (何を), Why (なぜ), How (どのように)のいわゆる「5W 1H」は小学校から指導が始まる。英検では、5級で疑問詞when, where, who, what, how, which, whoseが用いられ、疑問詞whyのみが4級から扱われている。早期から疑問詞が積極的に使用されているのは、英検が検定試験であるため設問作成において疑問詞が必要であることが要因の一つとして考えられる。No. 12は既に中学校で言語材料として扱われているため、学習指導要領の改訂に伴い追加された事項である。No. 13, No. 14は小学校外国語科での「新」事項である。No. 13はNo. 37と関連している。No. 14で活用頻度の高い基本的なものを含む文というのは、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしい表現のことであり、外国語科においては動名詞や過去形を文から取り出して指導はしない。No. 13, No. 14は、英検ではそれぞれ5級、4級が初出である。英検5級では過去形は扱われておらず、進行相を含む現在形のみが用いられていることが分かった。

次に、「(イ) 文構造」について検証していく。文部科学省(2008a)では、文を「文型」によって分類するような指導に陥らず、文の構造自体に目を向けることを意図して「文構造」という用語を用いていると記されている。本稿では、文の構成要素としての主語(S)や動詞(V)、目的語(O)、補語(C)という用語だけでなく、理解を促すために「文型」という用語を用いる。基本5文型で考えると、No. 15は第1文型「SV」である。第1文型「SV」は小学校から指導が始まる。第No. 16からNo. 19

は第2文型「SVC」であり、No. 16, No. 17のように動詞がbe動詞の場合は小学校、英検5級で初出であるが、動詞がbe動詞以外のNo. 18, No. 19のような場合は中学校、英検では4級から扱われている。No. 20からNo. 25は、第3文型「SV0」として分類可能である。No. 20に特筆すべき点はない。No. 21はNo. 14と関連しており、基本的な表現であれば小学校でも動名詞を含んだ文が扱われる。No. 22について、動詞がwantであるとき、児童の発達の段階を考慮しながら、目的語に名詞的扱いとなるto不定詞が取り扱われることがある。No. 23からNo. 25については、目的語(O)の部分が語ではなく句や節になっている。中学校での学習事項であり、英検では3級以上の級で現れる項目である。No. 26からNo. 30までは第4文型「SV00」である。第4文型はいずれも中学校に入ってから学ぶ文法事項である。No. 26は英検4級で現れるが、No. 27からNo. 29までの項目は英検3級で初出である。No. 30からNo. 32までは第5文型と分類できる。No. 32は、旧学習指導要領では高等学校で扱っていた事項であるが、今回の改訂で中学校での指導事項に移行した。No. 30, No. 31は中学校、英検であれば3級から扱われることになる事項である。No. 32については、Let'sやLet us try!などの表現に小学校ですでに触れているという実態から、今回の改訂に伴い高等学校から中学校へ移行した。しかし、第5文型で補語が原形不定詞の文構造は英検では準2級以上での扱いになっている。No. 33からNo. 35については特筆すべき点はなく、英検では3級からの扱いである。No. 36の文構造はこれまで学習指導要領に示されていなかったが、中学校ですでに扱いがあったことを踏まえ指導事項に追加された。

続いて、「(ウ) 代名詞」について検証を行う。No. 37はNo. 13と関連がある。I, you, he, sheなどの基本的なものは小学校で扱われるが、あくまで代名詞を含む文としてという考えに基づいており、代名詞としては中学校での指導事項になる。No. 38では、thoseは小学校で扱いはないものの、英検では5級から現れることが分かった。No. 39は、No. 11での説明と同様である。No. 40は基本的には中学校、英検では4級以上で扱われるが、Thank you very much.などの表現に含まれるmuchは小学校の教科書でも見かけることがある。No. 41からNo. 46までは関係代名詞である。この中でNo. 44の接触節、目的格の関

係代名詞の省略という説明がなされることもあり、新旧中学校の学習指導要領では、関係代名詞と併せて指導することも考えられるとの記述が確認できる項目である。これらの関係代名詞は、英検では3級以上で現れる。No. 47からNo. 49は新設の文法事項である。No. 47はNo. 2, No. 3と関連する事項であり、中学校から重文、複文を扱うため、重文を作るand, but, orや、複文を作るthat, if, when, because, as, thanなどが文部科学省(2017b)に記されている。No. 48はNo. 9と関連しており、canが「能力」を表す場合のみ小学校で扱われる。canの「許可」や「依頼」やmust, must not, may, shouldなどは中学校での扱いである。No. 49の前置詞については、on, in, atなどは小学校で慣れているが、文法事項としては中学校からの扱いということである。

「(エ) 動詞の時制」については、時制及び相という記述に変更になっている点が目を引く。時制には現在時制と過去時制があり、未来の表現は受動詞などを用いる。相には進行相と完了相がある、という解説に変更がなされたため、非常に分かりやすくなった。小学校では、現在形と基本的な表現として動詞が過去形である文も扱うことにとどめている。No. 50, No. 51それぞれの進行相であるNo. 52とNo. 53は中学校での指導事項である。英検では現在形、現在進行形は5級から、過去形、過去進行形は4級から現れる。No. 54の現在完了形は、中学校段階、英検では3級から扱われる。No. 55の現在完了進行形は今回の改訂に伴い高等学校から中学校に移行した。英検では、現在完了進行形は英検準2級が初出である。No. 56は、未来時制ではなく未来表現であることを

確認しておきたい。助動詞の未来表現は中学校から、英検では4級から用いられる。No. 57からNo. 64の中では、No. 61がNo. 14と関連があり注意が必要であるが、それ以外の項目では特記事項はなく、いずれも中学校での学習事項であり英検では3級から扱われる。No. 65が今回の改訂で最も注目された項目の一つである。高等学校から中学校への移行であり、英検では準2級で初出である。

### 3.2 旧高等学校学習指導要領で扱われた文構造及び文法事項と新学習指導要領及び英検各級レベルとの比較

表2は、旧高等学校学習指導要領に示された文構造・文法事項別にまとめたものである。左端には、考察の際の参照を容易にするための通し番号として「No」を付した。その右の「高等学校」の列であるが、この表は原則、旧高等学校学習指導要領である文部科学省(2009)に基づいているため、すべての項目が「高」となる。その列に「新」と記してある場合は、その項目が新たに高等学校学習指導要領に追加されたことを示している。「文構造及び文法事項」、「例」も文部科学省(2009)に基づいているが、「新」の項目については、文部科学省(2019)の記述を参照した。「中／高」の列では、今回の改訂後の中学校／高等学校における指導項目の区別を「中」「高」で記した。「中高」とある場合は、同様の項目が中学校と高等学校にわたる指導内容であることを示している。「英検」の列は、それぞれの項目がどの級で初めて現れるのかについて、3級(3)、準2級(P2)、2級(2)で示した。「備考」欄には、特記事項を記入した。

表2 旧高等学校学習指導要領で扱われた文構造及び文法事項と新学習指導要領及び英検各級レベルとの比較

No	高等学校	文構造及び文法事項(学習指導要領)	例(学習指導要領解説から)	中／高	初出	備考
		イ文構造のうち、運用度の高いもの				
		a [主語＋動詞＋補語]のうち、				
1	高	(a)主語＋be動詞以外の動詞＋分詞	The old man sat surrounded by children.	高	P2	
		b [主語＋動詞＋目的語]のうち、				
2	高	(a)主語＋動詞＋ifで始まる節	I wonder if you are free today.	高	P2	
		c [主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語]のうち、				

3	高	(a)主語+動詞+間接目的語+thatで始まる節	She told me that she had been busy.	中	3	中学校へ移行
4	高	(b)主語+動詞+間接目的語+whatなどで始まる節	Please tell me what you want.	中	3	中学校へ移行
5	高	(c)主語+動詞+間接目的語+ifで始まる節	I asked her if she was free.	高	P2	
		d [主語+動詞+目的語+補語]のうち,				
6	高	(a)主語+動詞+目的語+分詞	I saw the man crossing the road.	高	P2	
7	高	(b)主語+動詞+目的語+原形不定詞	My father made me wait outside.	中	P2	中学校へ移行
		e その他				
8	高	(a)主語+seemなど+to不定詞	We seem to have a new teacher.	高	P2	
9	高	(b)It+seemなど+thatで始まる節	It seems that we have a new teacher.	高	P2	
		ウ文法事項				
		(ア)不定詞の用法				
10	高	原形不定詞	—	中高	P2	知覚動詞とともに用いる原形不定詞を扱う
		(イ)関係代名詞の用法				
11	高	関係代名詞what	—	高	P2	
12	高	非制限的用法	—	高	P2	
13	高	(ウ)関係副詞の用法	—	高	P2	
14	新	接続詞の用法	—	高	—	論理的に活用できるように指導する
		(エ)助動詞の用法	—			
15	高	助動詞の過去形	could, might, would	高	3 P2	
16	高	助動詞を含む受け身表現	—	高	P2	
17	高	助動詞と完了形を用いた過去に関する推測の表現	—	高	P2	
		(オ)代名詞のうち、itが名詞用法の句及び節を指すもの				
18	高	itを形式的に主語として用いるものうち、itが名詞用法の節を指すもの	—	—	—	必要に応じて扱う
19	高	itを形式的に目的語として用いるものうち、itが名詞用法の句及び節を指すもの	—	—	—	必要に応じて扱う
20	新	前置詞の用法		高	—	
		(カ)動詞の時制など				動詞の時制及び相
21	高	現在完了進行形	—	中	P2	中学校へ移行
22	高	過去完了形	—	高	P2	
23	新	過去完了進行形	—	高		学習指導要領に追加
24	高	(キ)仮定法	—	中高	P2 2	基本的な仮定法は中学校へ移行
25	高	(ク)分詞構文	—	—	2	必要に応じて扱う

表2については、該当の項目それぞれについて、関連するものはまとめて取り上げながら考察を行いたい。まず、文構造について、No. 1とNo. 2には特筆すべき点はなく、英検では準2級で初出の文構造である。No. 3とNo. 4は中学校のNo. 28とNo. 29に移行しており、英検では、これらの文構造は3級で扱われている。No. 5, No. 6とNo. 8, No. 9にも特筆すべき点はなく、従来どおり高等学校段階での指導項目であり、英検では準2級で初めて現れる文構造である。No. 7は中学校のNo. 32へ移行しているが、英検では準2級で初出である。

次に、文法事項について検証していく。No. 10はNo. 7と関連しているが、文部科学省(2018)で、高等学校では新たに知覚動詞とともに用いる原形不定詞を扱うという記述を確認できる。No. 11は高等学校での扱いであり、英検では準2級から現れる。No. 12とNo. 13は変更がないため特記事項はない。No. 14とNo. 20が、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用するという観点から、新たに高等学校の学習指導要領で文法事項として扱われることとなった。一方で、No. 18, No. 19とNo. 25は同様の観点から、文法事項からは記述がなくなり、必要に応じて扱うことになった。No. 15からNo. 17までは従来どおり高等学校段階での指導項目である。No. 15は、英検のどの級で初出かを判断することは難しい。No. 21は中学校のNo. 55へ移行している。No. 22は従来どおり高等学校での扱いであるが、No. 23は新しく高等学校学習指導要領に追加された。No. 24は中学校のNo. 65へ移行した基本的なものを含め、五つの領域別の目標を達成するのに必要とされるものを精選して指導されることになる。

## まとめと今後の課題

本研究では、新学習指導要領で扱われている英語の特徴や決まりに関する事項の文構造及び文法事項を明確にするために、児童・生徒が小学校から高等学校までの学校教育制度の中で、どのような文構造や文法事項を学ぶのかについて新旧学習指導要領の比較対照を行った。加えて、それらの文構造や文法事項について具体的な難易レベルのイメージを得るために、英検のどの級で初めて出現するかを調査した。その結果、従来中学校で扱われ

ていた文、文構造の基礎的な事項が小学校の外国語科、すなわち教科としての英語学習で扱われることになり、高等学校で扱われていた仮定法のうち基本的なものなどが新たに中学校で扱われるようになったことが確認できた。文構造や文法事項の英検での初出については正確を期したが、判断が難しい項目も多くあった。結果として、それぞれの文構造、文法事項の英検各級レベルとの比較においては、いくつか例外的な事項はあるものの、英検各級のレベルとほぼ同順序に現れていることが分かった。

今回の研究では、文構造と文法事項のみに焦点を当て調査を行った。小学校外国語科の導入にともなう影響は語彙数にも表れており、この度の学習指導要領改訂で、中・高等学校で学ぶ総語彙数は3000語程度(中学校1200語、高等学校1800語)であったものが、小・中・高等学校を通じて学習する高校卒業レベルの総語彙数で4000～5000語程度(小学校600～700語、中学校1600～1800語、高等学校2000～2200語)へと大幅に増加している。文構造及び文法事項に関していえば、高等学校から中学校へ、中学校から小学校へ移行している項目があることを考えると、確かに英語学習の早期化は見えて取れる。しかしながら、高等学校の文構造・文法事項については、追加もあれば削除項目もあるため増えているとは言い難い。新学習指導要領にもあるように、文構造及び文法事項は、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れ、実際の場面で活用できることが重要なのだと考えられる。見方を変えれば、文構造や文法事項の指導項目はある程度限られているので活用を目指すべきであるが、語彙数についてはまだまだ不十分ということなのであろう。今後も、小学校英語教科化にともなう小・中・高等学校の新学習指導要領で扱われる内容や校種間の接続、そして、その効果と問題点などを研究したい。

## 引用・参考文献

- 旺文社『2022年度版 英検2級 過去6回全問題集』
- 旺文社『2022年度版 英検準2級 過去6回全問題集』
- 旺文社『2022年度版 英検3級 過去6回全問題集』
- 旺文社『2022年度版 英検4級 過去6回全問題集』
- 旺文社『2022年度版 英検5級 過去6回全問題集』

大橋典晶・橋内幸子・佐生武彦・竹野純一郎 (2011) 「グロービッシュの求める構文・文法と日本人の構文・文法力」『中国学園大学紀要』第10号, 67-75.

文部科学省 (2008a) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編 (平成20年 8月)』

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afielddfile/2009/06/16/1234931\\_012.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afielddfile/2009/06/16/1234931_012.pdf)

文部科学省 (2008b) 『中学校学習指導要領解説 外国語編 (平成20年 7月)』

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afielddfile/2011/01/05/1234912\\_010\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afielddfile/2011/01/05/1234912_010_1.pdf)

文部科学省 (2009) 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編 (平成21年12月)』

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afielddfile/2010/01/29/1282000\\_9.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afielddfile/2010/01/29/1282000_9.pdf)

文部科学省 (2017a) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語活動・外国語編 (平成29年 7月)』

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afielddfile/2019/03/18/1387017\\_011.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afielddfile/2019/03/18/1387017_011.pdf)

文部科学省 (2017b) 『中学校学習指導要領解説 外国語編 (平成29年 7月)』

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afielddfile/2019/03/18/1387018\\_010.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afielddfile/2019/03/18/1387018_010.pdf)

文部科学省 (2018) 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 (平成30年 7月)』

[https://www.mext.go.jp/content/1407073\\_09\\_1\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1407073_09_1_2.pdf)